

第1回検討会における各委員意見と対応

使用済紙おむつの再生利用等に関するガイドライン改定に関する検討会（第1回）における各委員の意見と対応を、下記の通り整理する。

委員からの意見	対応
<p>1. 紙おむつリサイクルを市町村のごみ処理全体の中でどう位置づけるかという視点が重要。</p>	<p>全般的に、廃棄物の焼却量・埋立量削減、循環型社会構築に向けて自治体に対処すべき視点から整理し記載。また、第2章2項に、一般廃棄物処理システムにおける使用済紙おむつの位置づけを記載。</p>
<p>2. 高齢者のごみ出し支援と紙おむつの関係についての位置づけをガイドラインに記載すべき。</p>	<p>第3章2項のコラム＜福祉部署と連携した高齢世帯からの回収＞に「高齢者向けごみ出し支援制度導入の手引き」等の内容を追加し、高齢者のごみ出し支援と使用済紙おむつ分別回収の関係について相互補完関係にあると記載。</p>
<p>3. ペット用おむつ等の取り扱い方について情報提供が必要である。</p>	<p>第1章2項の＜ペット用おむつ・ペットシートについて＞に記載。現状は、多くが焼却処理されているが、人用の紙おむつの検討と同時に、検討する必要があると記載。</p>
<p>4. 使用済紙おむつが焼却処理に与える影響に関して、分別することで焼却施設の延命につながる可能性がある。</p>	<p>第2章3項「使用済紙おむつ再生利用等の効果」に、最新の研究結果を踏まえ、第3回検討会までに記載予定。</p>

委員からの意見	対応
<p>5. 首長等の意識が高い自治体でリサイクルに積極的なケースがある。また、自治体が紙おむつリサイクルを導入するためには、自治体職員が関係者へ説明できるよう、費用対効果やCO₂削減等のエビデンスが重要である。</p>	<p>第2章3項「使用済紙おむつ再生利用等の効果」にメリットを整理。「GHG排出削減効果」については、事業者へのヒアリング情報を整理中のため、第3回検討会までに記載予定。また、自治体向けのアンケートを実施中であり、記載内容をさらに充実させる予定。</p>
<p>6. 燃料化に加えて、マテリアルリサイクルの重要性についても記載すべき。</p>	<p>第2章2項「使用済紙おむつ処理の現状」に、循環型社会形成推進基本法でのマテリアルリサイクル・熱回収の位置づけや、紙おむつリサイクルの現状を踏まえた内容を記載。</p>
<p>7. リサイクル事業の持続可能性のためには、事業系とともに、家庭系も回収することで事業性を確保できる場合がある。住民の意識醸成が大切。地域で再生材を利用できると住民の理解につながる。</p>	<p>第3章4項「住民・排出事業者等への周知・協力依頼」に、左記の趣旨を記載。</p>
<p>8. 補助金制度は民間事業者の取組の後押しにもなるため、詳細な紹介が必要である。</p>	<p>第5章3項「使用済紙おむつの再生利用等施設の導入等にあたり活用可能な支援策の例」で情報をアップデート・充実させるとともに使用済紙おむつに係る活用例を記載。（随時更新可能とするためGLではなく、別資料としてHPへの掲載も検討。）</p>

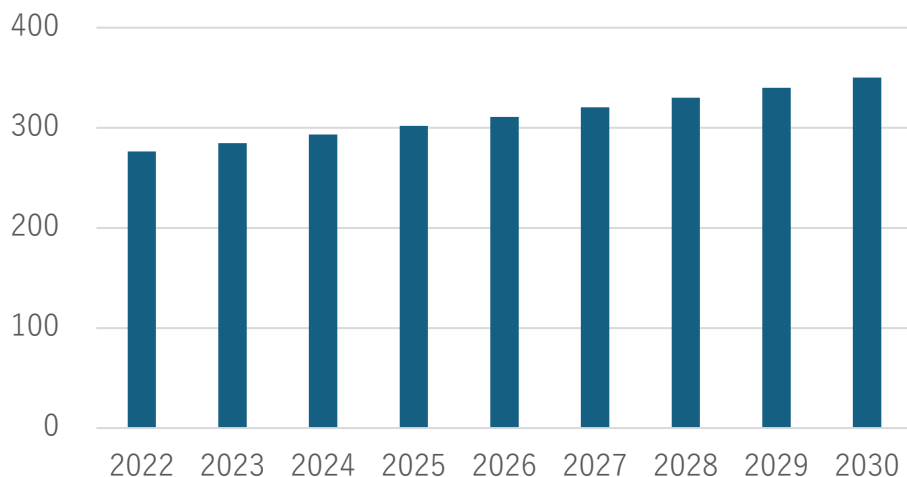
委員からの意見	対応
<p>9. 実証から実装への展開が課題となっているので、先行自治体など参考情報を記載すべき。</p>	<p>第2章2項「実施されている自治体事例一覧」で、アンケート項目である、実証から実装に至るまでの各工程における課題、取組のきっかけ、取組の目的、導入時の参考情報、取組の連携先、コスト情報等を記載。 （現在アンケート調査中のため、第3回検討会で記載予定）</p>
<p>10. リサイクル製品の出口（販路）の確保は重要である。再生パルプの品質保証によって再生材利用が進むため、関連情報を記載すべき。</p>	<p>第5章6項「使用済紙おむつ再生品に関連する基準」に、再生パルプのJIS規格を紹介。</p>
<p>11. 感染性廃棄物に関する対応方法について整理すべきである。</p>	<p>第1章2項で、「廃棄物処理法に基づく感染性廃棄物処理マニュアル」（令和7年4月）の「感染性廃棄物の判断フロー」に基づく、感染性廃棄物の判断基準を掲載。また、感染性廃棄物に関する対応方法として当該マニュアルを紹介。</p>

委員からの意見	対応
<p>12. 社会実装後の現状として、コスト面に課題がある。今後の展開に向けて、水処理施設の簡略化や、再生品の高付加価値化、紙おむつメーカーとの連携が必要となっている。各リサイクルにおけるCO₂排出量の比較には、共通化された基準による計算が必要である。</p>	<p>第2章3項「GHG排出削減効果」にて、共通化された基準による計算結果を記載予定。事業者へのヒアリング情報を整理中のため、第3回検討会までに記載予定。</p>
<p>13. 法制度（再資源化事業等高度化法等）について記載が必要である。</p>	<p>第2章2項「使用済紙おむつ処理の現状」第5章4項「関連する法令・基準」にて、「資源循環の促進のための再資源化事業等の高度化に関する法律」等の情報を記載。</p>
<p>14. 使用済紙おむつの長期的な排出量推計は、焼却施設の設計やごみ処理のあり方を検討する際にも重要である。</p>	<p>第2章1項「国内の使用済紙おむつ排出量推計」で2040年、2050年の推計値を記載。</p>

(参考) ペット用おむつ・ペットシーツの排出量・市場動向について

- 近年、ペットの「家族化」の進展等により、ペット用おむつ・ペットシーツの市場規模は拡大している。
- 今後も、使用済ペット用おむつ・ペットシーツの排出量も一定程度発生することが見込まれる。関連情報が不足していることから、**正確な排出量を推計・予測することは現状困難であるが、一定の仮定を置いた場合、2030年度時点で約3～6万トン排出される可能性がある**と推計。

国内のペット（犬用品）用おむつ・ペットシーツ市場規模推計
(2022年～2030年) 単位：億円



※出典：一般社団法人日本ペット用品工業会『ペット用品産業実態調査（2022年度・2023年度）』をもとに環境省作成。
 ※犬用品区分「ペットシーツ」出荷額（27,632百万円）（2022年度）の数字をベースに、ペット用おむつ等を含む関連市場として推計。
 ※市場規模の将来推計は年平均成長率（CAGR）3.7%であると仮定して計算（富士経済「2024年 ペット関連市場マーケティング総覧」）。

■ ペット用おむつ・ペットシーツの排出量推移

種類	2022年度（推計）	2030年度（予測）
ペット用おむつ・ペットシーツ（小型犬）排出量（万トン）	約2.2～4.6	約2.9～5.8
※参考：人間用紙おむつ排出量（万トン）	家庭系：150～166 事業系：64	家庭系：157～173 事業系：88

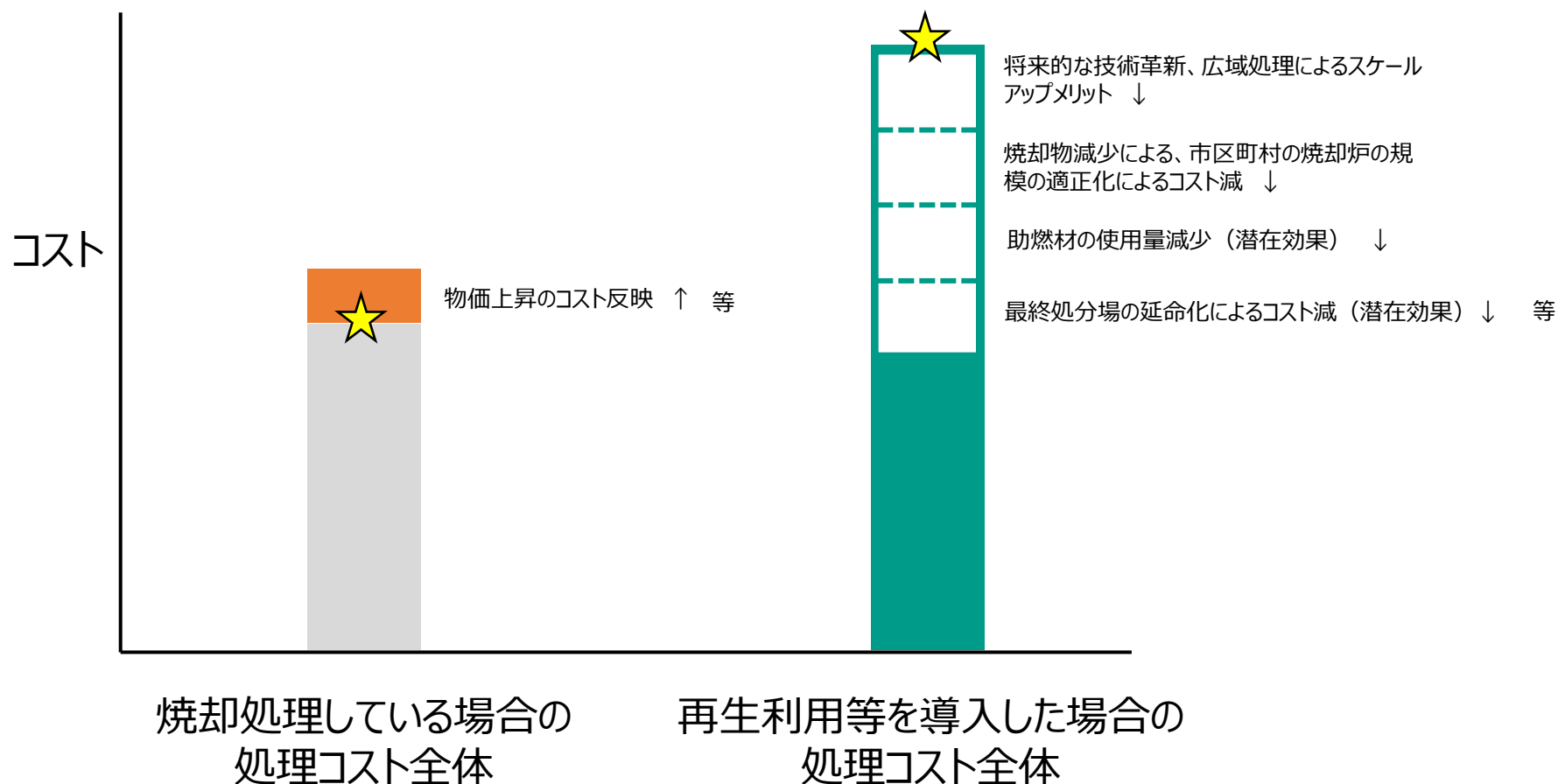
※「排出量」は販売量＝使用後廃棄量と仮定
 ※主要製品1枚当たり単価15円（机上調査による市場価格平均）と仮定し、市場規模から割り戻した
 ※生産枚数に対し重量20g（机上調査による市場価格平均）と仮定し、枚数×重量で計算。

■ 参考：ペット用おむつ・ペットシーツの1枚当たりの重量（製品時、乾燥ベース重量）

種類	1枚あたり重量（平均）	備考：出典元
ペット用おむつ/小型犬用	約20g/枚	各社製品仕様（アイリスオーヤマ、ユニ・チャーム等）を基に環境省算出（2024年）（Sサイズ）
大型犬用（中型含む）おむつ	約35g/枚	同上（M～Lサイズ）
ペットシーツ（紙）	約12g/枚	同上
※参考：大人用紙おむつ	約84g/枚	令和元年度（一社）日本衛生材料工業連合会資料（アウター重量）

使用済紙おむつに関する処理コストのイメージ

- 廃棄物処理にかかるコスト全体でみると、使用済紙おむつを焼却処理する場合と再生利用等する場合を比較すると、見かけよりも差が小さくなることが考えられる。



※実際のコストは、ケースバイケースで定量的に示すことは難しいため、あくまでイメージ図となっている。